

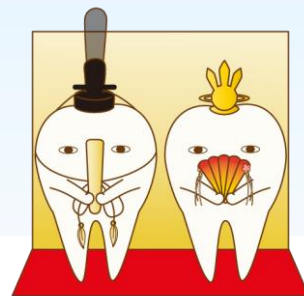
広島市歯科医師会だより



3月号

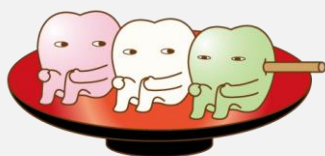
Hiroshima City Dental Association

No.155 (R2.3.11)



目次

予告 令和2年度 学校歯科医協議会講演会	1 ページ
行事報告	
広島市歯科医師会令和元年度 喀痰吸引研修会	1 ページ
広島市歯科医師会第2回 学術講演会(シリーズⅢ)	1 ページ
救急蘇生委員会	2 ページ
第6回支部長・副支部長会議	2 ページ
支部だより	
中区支部	3 ページ
東区支部	6 ページ
南区支部	7 ページ
西区支部	9 ページ
支部長・副支部長自己紹介	
(野村登志夫東区支部長・竹本美保東区副支部長・古谷知之南区支部長・橋本直典南区副支部長)	12 ページ
会長コラム『柔しく剛く』	15 ページ
各部からの報告	
広島市医療安全推進協議会よりーこんな医療トラブルが起こっていますー(総務部)	16 ページ
今月の知っておきたいこと(広報部)	16 ページ
FM ちゅーピー(広報部)	19 ページ
誰もが納得！ I L♥ve 広島弁じゃけえ。(広報部)	19 ページ
会員ひろば	
新入会員紹介	20 ページ
2月定例理事会報告	20 ページ



予告 令和2年度 学校歯科医協議会講演会

令和2年度の学校歯科医協議会での講演会は、子どもの摂食・嚥下機能について深い造詣と多くの臨床経験をお持ちの田村文誉日本歯科大学教授をお迎えし、下記の日程で開催することになっています。参加申込用紙は4月中旬に配布する予定としておりますので、奮ってのご参加をお願い申し上げます。

日時：5月7日（木） 午後7時

場所：広島県歯科医師会館 2階 ハーモニーホール



	<p>演題：「子どもの食べる機能の発達を支援するために」 ～講師より～ 「食べる機能の発達にはある程度の決まり事がありますが、それぞれに個人差があります。保護者や養育者がこどもの「食べる」ことで悩んだ時に、少しでも手助けになるようなお話をさせていただこうと思います。」</p>	<p>【講師略歴】 1989年 昭和大学歯学部卒 2001年4月～2002年3月 米国アラバマ大学留学 2004年 日本歯科大学 講師 2007年 同 准教授 2012年 同 口腔リハビリテーション科科长 2013年～同 教授 現在に至る</p>
--	--	---

※本講演会は本会会員診療所に勤務するスタッフの方にもご参加いただくことができます。

※今後の新型コロナウイルス感染拡大の状況による開催予定変更の可能性について予めご了承ください。

行事報告

広島市歯科医師会令和元年度 喀痰吸引研修会

要介護者において、口腔ケア中に喀痰吸引の必要性が生じる機会が考えられるとのことで、平成29年度に一度開催された標記研修会が、今年度も古谷和久あかりホームケアクリニック院長を講師に招いて1月29日(水)午後7時30分より県歯会館2階「ハーモニーホール」にて開催された。

まず、古谷院長より喀痰吸引の必要性とやり方についての講演があった後に、模擬痰と吸引器、マネキン3体を用いて実際に吸引を行った。希望者が、実際にチューブを古谷先生に入れてもらい患者の気持ちを理解することなども行った。

最後に、三保浩一郎氏が講評を述べて閉会となった。参加人数は29名だった。



研修会の様子

広島市歯科医師会第2回

3回シリーズで行っている第2回学術講演会の3回目の講演が2月6日(木)午後7時30分より県歯会館2階「ハーモニーホール」にて行われた。講師は1、2回目と同じく中区で開業されている吉岡俊彦氏で、『根管洗浄・根管充填』について講演頂いた。聴講者は120人であっ

学術講演会(シリーズⅢ)

た。

まず、根管洗浄と根管貼薬との関係の話があった。具体的には根管内の無菌化は形成と洗浄のみで行い、貼薬は補助的な役割と考えることが大事である。根管洗浄において現在過酸化水素水を使用するのは、様々な点にお

いて推奨されていない。

次に根管充填であるが、根管充填が治療するわけでは無く、根管形成・洗浄でキレイになった根管内の状態を維持するために行う処置である。根管充填のタイミングや充填材の要件があり、まとめると経時的に変形しないで、細胞毒性の低い材料で、きっちり詰まっていれば良いということになる。根管充填法は考え方が推移してきているので、その時代での考え方を学ぶ必要があることの話もされていた。その後メインポイントの決定法、側方加圧や垂直加圧などの具体的なお話があり、『一から見直す根管治療の基本術式』のシリーズ講演が盛況のうち

に終了した。また、希望があればこの3回で話が聴けなかった内容についても改めて企画したいと考えている。



講演会の様子

救急蘇生委員会

毎年1回、前年の救急事案についての振り返りと話し合いを目的に救急蘇生委員会が開催されている。今年も広島市歯科医師会の担当役員と広島大学病院より入船正浩歯科麻酔科教授と虎谷茂昭分子口腔医学・顎顔面外科学准教授、広島市消防局より中田徹救急教育担当課長と三好摩耶警防部救急課主査の御出席を頂き、2月17日(月)午後7時より、広島市歯科医師会「大会議室」にて開催された。

熊谷宏会長の挨拶の後、中田氏より昨年の歯科医院における救急事案の説明があった。昨年は42件救急事例があったとのことだった。その後、入船教授や虎谷准教授よりご意見やご助言を頂きながら、ディスカッションを行った。また消防局の方から、AEDを設置している歯科医院は広島市のAEDマップへの登録協力をお願いされた。最後に瓜生賢副会長の閉会の挨拶で終了した。

第6回支部長・副支部長会議

日時：2月19日(水)午後7時30分

場所：広島市歯科医師会「大会議室」

執行部から熊谷宏会長、瓜生賢副会長、能美和基専務理事が出席した。始めに熊谷会長より「令和2年になって初めての支部長・副支部長会議です。先生方におかれましては新年互礼会、広島市歯科医療福祉対策協議会総会とご協力ありがとうございます。本日もよろしくお願ひいたします。」と挨拶があった。報告、協議事項は以下の通りである。

報告

中区支部

- 12月18日 第5回支部長・副支部長会議
- 12月20日 大野正司先生ご逝去
- 12月30日 年末休日歯科救急医療実施
(ルミナス白島通りデンタルクリニック)23名
- 12月31日 年末休日歯科救急医療実施
(河村歯科医院)17名
- 1月4日 新年互礼会
- 1月17日 中1班班会
- 1月20日 中区地域ケアマネジメント会議

- 1月24日 中区在宅医療研修会
- 1月27日 吉島多職種連携会議小委員会
- 1月30日 中3班班会
- 2月1日 江波圏域多職種連携会議
- 2月6日 中区地域ケアマネジメント会議
- 2月7日 長崎昭憲先生
(3/31予定)廃院連絡あり
- 2月15日 広島市歯科医療福祉対策協議会 総会
- 2月16日 ひろしま口腔ケアフォーラム
- 2月17日 吉島多職種連携会議小委員会
- 2月18日 中区地域ネットワーク事例検討会

東区支部

- 12月12日 戸坂圏域同行研修
// 歯周病予防教室
- 12月13日 東区地域保健対策協議会第7回常任
理事会・理事会
- 12月16日 地域包括支援センター運営協議会意見
交換会
- 12月18日 第5回支部長・副支部長会議
- 12月30日 年末休日歯科救急医療実施
(クリスタル歯科クリニック)15名
- 12月31日 年末休日歯科救急医療実施
(ひかりまち小児歯科・矯正歯科)9名
- 1月4日 新年互礼会
- 1月25日 支部会・新年会

南区支部

- 12月18日 第5回支部長・副支部長会議
- 12月30日 年末休日歯科救急医療実施
(トーマス歯科クリニック)30名
- 12月31日 年末休日歯科救急医療実施(ふるたに
歯科)21名
- 1月4日 新年互礼会
- 1月17日 南区常設オープンスペース運営協議会
// 南区支部理事会
- 2月3日 南区地域保健対策協議会

西区支部

- 12月18日 第5回支部長・副支部長会議
- 12月28日 田中英樹先生診療所廃院
(大宮歯科医院)
- 12月30日 年末休日歯科救急医療実施
(アップル歯科クリニック)32名
- 12月31日 年末休日歯科救急医療実施
(ツノダ歯科三篠横川クリニック)18名
- 1月4日 新年互礼会
- 1月6日 北本純司先生診療所移転
- 1月9日 北本純司先生ご逝去
- 1月18日 渡辺幸男先生診療所移転
- 1月22日 西区在宅医療・介護連携推進委員会
事例検討会
- 1月25日 井口台・井口圏域 在宅医療・介護
関係者の連携会議
- 2月15日 広島市歯科医療福祉対策協議会 総会
- 2月18日 佐伯区・西区合同地域保健対策協議会
シンポジウム

協 議

①中 区

- ・歯科矯正治療中の転院について

②執行部

- ・支部ごとの案内について
- ・国保の現状について

支部だより

中区支部

令和元年度 中3班班会

1月30日(木)午後7時30分より、中区三川町の「正
弁丹吾」にて、標記会が開催された。

班会の冒頭、佐野隆志氏より12月にご逝去された大野
正司先生に対して、黙禱が捧げられた。引き続き来賓が紹
介され、本会より瓜生賢副会長、能美和基専務理事、中区
支部より波田佳範支部長が出席した。来賓挨拶は瓜生副会
長、波田支部長が行い、特に瓜生副会長の来年度の保険改
定情報は、出席者全員の興味を惹くものであった。

関野憲三広島高等歯科衛生士専門学校校長の乾杯の御
発声の下、宴がスタートしたのである。和気藹々とした雰
囲気の中で、新入会の石田一輝氏、河島紘太郎氏の紹介と
挨拶が行われた。恒例のビンゴ大会では、参加者全員高級

フルーツを狙ってのゲームの雰囲気はというと、望みの番
号が出る出ないでの、悲喜交々の空気を醸し出していたの
であった。

宴もたけなわのところであったのではあるが、今井正人
副班長の閉会の辞で、この会を終了した。



班会に参加した会員

第12回 江波圏域多職種連携会議

2月1日(土)午後4時より、西区観音本町の「広島市医師会館」3階「健康教育室」において、標記会が開催された。

中区健康長寿課の森内芳恵専門員の司会進行の下、山本眞一舟入山本内科クリニック院長より、会議趣旨説明が行われた。講師に小西太ほ一むけあクリニック理事長・中区医師会理事を迎え、「最後まで自分らしく生きる」という演題で行われた。

内容はACP(人生会議)に特化したものであり、まずその趣旨から始まり、現状と問題点をわかりやすく講演されたのであった。この会議には江波圏域の民生委員が参加されていることもあり、極力専門用語を用いられていなかったのが印象的であった。そして、自宅での看取りを行った4件の事例紹介がなされ、それぞれのケースで、最初に言っていたACPの内容と、時が立つことにより、その内容が変化していくことを示されたことが、興味深いものとなったのである。それと同時に現在の主張する内容を尊重するようにということであった。そして、最後にACPは高齢者に限定されたものではなく、幅広い世代に対応していく必要があるということで、講演を結んだのであった。

引き続き、グループワークへと移行し、「ACPを勧めるためにそれぞれの立場からどのようなアプローチが出来るか」というテーマで、内容は「独居高齢者の終末期を考

える」というもので、70代前半男性の事例紹介が行われ、各班のファシリテーターの議事進行の下で行われた。各班様々な職種の立場から活発な意見交換が行われたのであった。

まとめは、吉田明浩吉田医院院長が行い、宮城昌治中区厚生部医務監・健康長寿課長の閉会挨拶により、この会議を終了した。

なおこの会議には、中区支部より波田佳範支部長、加藤千季氏、小島将督氏、辰本将哉氏、長谷川聰氏、若林大輔氏が出席した。



講師の小西太ほ一むけあクリニック理事長を囲んで

第1回 ひろしま口腔ケアフォーラム～口腔ケアの輪～

2月16日(日)午前9時30分より中区基町にある「広島市立広島市民病院」の10階「講堂」において、標記会が開催された。

講演に先立ち、澤木康一市民病院歯科口腔外科部長による開会挨拶が行われ、講演へと移行していった。

最初の講演は、広島市民病院歯科口腔外科の吉岡洋祐氏より、「がん患者の口腔ケア」という演題で行われた。主な内容は、がん治療における口腔支持療法が取り上げられていたのである。このフォーラムには、コメディカルスタッフが多数参加されていることもあり、がん治療の口腔ケアに関して、わかりやすく平易な文言で進めていかれたのである。入院下でのがんの治療における有害事象は普段、われわれの診療所で目に触れることはなく、非常に興味深い内容であった。

引き続き、摂食嚥下障害看護認定看護師である藤井博美市民病院看護師より、「口腔ケア～もう一步前進するために～」という演題で行われた。主な内容は同院の看護師をはじめとする医療スタッフの口腔ケアに対する、取り組みと活動が紹介された。また、周術期等口腔機能管理の説明がなされ、かかりつけ歯科医院との連携の重要性を説かれたのであった。例えば、市民病院は広島市の総合病院の中で、この周術期等口腔機能管理が保険診療で取り扱われることになった際に、早い段階で本会にて、また各支部にも出張して講習会を行っていたことが、思い出されたのであった。現在広島県下での、協力歯科医院は概ね800にものぼるということであった。

周術期等口腔機能管理はやはり、顔の見える連携づくり、ワンチームで行っていく必要性を感じた次第である。

なおこのフォーラムには、中区支部より波田佳範支部長が参加した。



講演の参加者たち

第26回 中区地域ネットワーク事例検討会

2月18日(火)南区松原町のBIGFRONT 広島の広島市総合福祉センター5階「大会議室」において、標記会が開催された。

濱本千春 YMCA 訪問看護ステーション・ピース所長司会進行の下、講師に笹井司法書士事務所の笹井貴宏司法書士を迎え、「意思決定を支えるための支援～司法書士の先生に聞いてみよう！～」という演題で講演が行われた。

まず、笹井司法書士から、司法書士の業務がどのようなものであるかが示された。その主なものには、1.土地や建物の登記 2.会社や各種法人の登記 3.成年後見 4.相続・遺言 5.債務整理 6.裁判などが示されたのであった。

そして、笹井司法書士より2つの事例が示され、1つ目は「浪費癖のある女性の金銭管理」2つ目は「身寄りのない男性の資産管理」であった。

当日のグループワークは、12グループに分けられ、前半の6グループは1つ目の事例を、後半のグループには2つ目の事例を検討することになったのである。

各グループで熱心な議論が行われ、各グループそれぞれの視点に立った、オリジナリティーに富んだ発表が行われた。それから、笹井司法書士がコメントと、その後どうなったかを説明されたのであった。

今回の会議は今まで取り上げられてきた ACP(人生会議)とは、また違う視点で「在宅ケア」の一面を垣間見ることができ、ある意味では新鮮な感じを受けたのであった。

なお、この検討会には中区支部より波田佳範支部長、小松大造氏が出席した。



検討会の様子

第12回 国泰寺圏域多職種連携会議

2月21日(金)午後7時より、中区八丁堀の広島 YMCA 国際文化センター2号館「コンベンションホール」において、標記会が開催された。

宮城昌治中区健康長寿課医務監の司会進行の下、正岡亨中区医師会会長より開会挨拶があり、「現在、国内における新型コロナウイルス感染の深刻化により、直前のキャンセルにより、開催が危ぶまれましたが、何とか開催にこぎつけることができました。」という旨の挨拶が行われた。

今回は、「専門家に聞いてみよう！嚥下障害について」というコンセプトの下、演題は「姿勢と摂食嚥下障害～やってみましょう ポジショニング～」という内容で、講師は広島市立広島市民病院摂食・嚥下・口腔ケア部会より、

摂食・嚥下障害看護認定看護師である、尾門愛子氏より約20分にわたる、講演が行われた。主な内容は、摂食・嚥下時における姿勢の重要性にはじまり、ベッドや車椅子でのポジショニングのポイントや、ポジショニングの流れであった。

その後、体験実習へと移行し、4つのグループに分かれ、それぞれのグループの講師の指導の下、ベッドや車椅子でのポジショニングがどのようなものであるかを体験したのであった。

今まで体験したことのない、ベッドや車椅子でのポジショニングは新たな知見を得ることができ、在宅、入院下で

の訪問診療はもちろんのこと、診療室での車椅子利用者の診療のポイントも得ることができたのであった。

閉会挨拶は、竹本元義中區医師会在宅医療推進リーダー医が行い、この会議を終了した。

なおこの会議には、中區支部より波田佳範支部長、香川次郎副支部長、加藤千季氏、河島紘太郎氏、小島将督氏、小松大造氏、辰本将哉氏、橋本佳子氏、平田誠氏、森田薫氏、森川真理氏が出席した。



(左) 会議の出務者 (右) 被験者の波田佳範中區支部長

東區支部

令和元年度 第2回 東區支部会および新年会

1月25日(土)の午後6時45分より、「かに通」において標記会が開催され、27名の会員が参加した。

竹本美保東區副支部長の司会進行のもと、野村登志夫東區支部長の挨拶に始まった。昨年下半年期の各行事について報告された後に、今後開催される他職種連携会議や各研修会、さらに来年度の東區民イベント出務や休日歯科救急医療施設当番の予定などについての説明と協力の依頼が行われた。当日、安芸歯会へ講演のため欠席された平岡弘光県歯会国保理事が作成した「広島県歯科医師国保組合の現状と改革について」の資料が配付された。また、来年度の東區民イベント出務に際し、使用する機器の選定や歯科相談の内容さらに出務費改定などについて協議がなされた。

その後、本会より熊谷宏会長および能美和基専務理事、広島口腔保健センターからは宮内美和センター長および濱陽子副センター長、また緒方直之広島県議会議員、山路英男広島市議会議員を来賓としてお迎えし新年会が開催された。

はじめに熊谷会長、宮内センター長、緒方県議員、山路市議員より挨拶を賜った後、山村剛氏による乾杯で開宴となった。冬の風物詩である美味しいかに料理に舌鼓を打ちながら、和やかな雰囲気の中でお互いの近況報告をし、来賓と会員間の親交を深めた。最後に野村支部長の閉会の辞にて名残を惜しみながらの閉会となった。



(左) 支部会の様子 (右) 新年会の参加者

平成 31 年度(令和元年度) 第 2 回

東区役所 5 階「講堂」で 2 月 19 日(水)の午後 1 時より、標記会が開催された。この会は広島市東区役所の東区子育て交流ひろば「ぽっぽひがし」の運営を協議する会であり、広島市東区医師会をはじめ、本会、広島市薬剤師会、広島県看護協会東支部、東区民生委員児童委員協議会、東区社会福祉協議会などの多職種の委員と東区地域ささえあい課および東区地域子育て支援センターの事務局で運営されている。行広律枝地域支えあい課課長補佐の司会により、初めに神崎敏子東区民生委員児童委員協議会会長の挨拶があった。つづいて延田真樹子地域支えあい課主任技師より平成 31 年度「ぽっぽひがし」の実施報告として運営状況やイベント実施の結果報告があった。令和 2 年 1 月時点で 181 回が開催され、のべ

東区子育て交流ひろば運営協議会

16041 名(1 日平均 88.6 名)が参加されていた。主なイベントとしては栄養士や助産師、看護師による健康相談や保育士によるふれあいあそびなどであった。あわせて子育て応援隊「ねこの手」や比治山大学の学生が中心となる遊びのイベントが 4 回開催されていた。次に令和 2 年度の実施計画が示され、前年度から継続して実施する事業のほか、七夕やクリスマス、節分などの季節行事や親の健康づくり(栄養や女性のがん予防など)講座、防災に関する講座などを拡充する案が示された。委員からの質疑応答の後、最後に佐藤修治東区医師会会長の閉会の辞により閉会した。なお東区支部からは野村登志夫支部長が出席した。

医療安全研修会

2 月 21 日(金)の午後 7 時より、広島県医師会館 2 階「201 会議室」にて、標記会が開催された。主催は広島市東区地域保健対策協議会、広島市東区医師会、医療法人社団輔仁会太田川病院であり、医師や歯科医師(東区支部より野村登志夫支部長、竹本美保副支部長、野坂覚氏が参加)、薬剤師、看護師、介護支援専門員、地域包括担当者など計 68 名が参加した。満田一博東区地対協理事の司会のもと、佐藤修治東区地対協会長の挨拶から始まり、梅本誠治広島大学学術院健康科学分野臨床医学(内科系)教授・センター長が「医療従事者と患者のための医療安全対策とは」というタイトルで講演を行った。法とは倫理の最低限度の規範であり、わが国では未だにパターンリズムが根強く患者と医療提供者の関係の未熟性から医事紛争が発生しやすい。医療事故は単独で発生するものではなく、複数の事象が連鎖することで起こるものであり、多職種の医療スタッフが連携をとりながら、医療現場のリスクマネジメントを図ることが重要である。医

療従事者のための医療安全対策マニュアルは、たとえ小規模な診療所であっても常にアップデートする必要があるなどの説明がなされた。一方で大学での治験を分担する医師の判断記録(カルテ)の確認や判定、記録から被験者の安全性の確保のため治験の継続の可否や再検査の必要性、有害事象等の関連から原資料であるカルテの重要性について事例を交えた紹介があった。質疑応答の後、金谷雄生東区地対協副会長の挨拶で閉会した。



研修会の様子

南区支部

広島市大州地域包括支援センター主催介護予防教室

2 月 5 日(水)の午前 11 時 30 分より荒神集会所にて、広島市大州地域包括支援センター主催の標記会が開催さ

れ、中川誠氏が「おいしい食事はお口の健康から」と題して荒神地区の地域住民 11 名に対して講演を行った。

講演では、主に舌の運動機能の維持・向上が摂食嚥下機能の維持・改善や誤嚥性肺炎の予防に有効であることを解説した。摂食嚥下機能には舌の筋力が重要であることを説明し、舌圧測定器にて舌の筋力が数値として把握できるようになったことを紹介した。次にペコぱんだを用いた舌圧トレーニングを出席者全員で行った。

その後質疑応答を行い、美味しく食事ができるためのお口の健康維持にはむし歯や歯周病のケアだけでなく、舌や筋力・唾液といったお口周りの機能の維持も重要であることを理解して頂いた。

本会地域歯科保健部は介護予防教室で舌圧測定器やペコぱんだを活用することによって、通所口腔ケアサービ

ス利用のきっかけとなる取り組みを行っている。今後も高齢者のフレイルへの移行を予防する啓発を行っていく所存である。



教室の様子

広島市大州地域包括支援センター主催介護予防教室

2月10日(月)午前10時30分より堀越集会所にて、広島市大州地域包括支援センターが広島市地域介護予防拠点整備事業の一環として主催する介護予防教室において、地域歯科保健部の有馬隆理事が「人生100年時代を楽しく過ごすための『飲み込む力』アップのススメ」と題する講演を行った。

講演では、最初に口腔機能の低下が摂取食品や栄養バランス、健康寿命に及ぼす影響等について言及した上で、それを防ぐための歯の喪失の防止、かかりつけ歯科での定期健診の重要性等について説明した。講演の後半では嚥下機能の維持の重要性を説明し、その低下がもたらす誤嚥性肺炎や食物による窒息について、また、その維持のための「ペコぱんだ」や「あいうべ体操」、「かみかみ百歳体操」等を紹介し、参加者とともに実習した。最後に大州地域包括支援センターの山下あきみ氏が挨拶をして閉会した。

ペコぱんだの実習後には「べろが痛くなった」という感想が聞かれるなど、舌の筋力低下を実感した参加者も少なくないようであった。また、「歯科医院での歯のクリーニングはどれくらいの間隔で受けたらいいのか」とか、「(口腔の)ガンは増えているか」など、多数の質問が寄せられ、口腔の健康への関心の高さが窺われた。

地域歯科保健部は今後も継続して地域に根ざした介護予防事業を推進し、口腔機能維持の重要性を啓蒙することとしている。



講演をする有馬隆理事

令和元年度 第2回 南区支部学術講演会

2月21日(金)午後7時30分より県歯会館5階「会議室」にて、サンメディカル(株)国内営業部の三上徹氏を講師に招き「スーパーボンド実習付き説明会」という演題で標記会を開催した。

福井康人氏司会のもと、古谷知之南区支部長の開会挨拶があり講演が行われた。

初めに三上氏より現在サンメディカルより発売されているスーパーボンドのラインナップの説明があった後に、筆積法専用、混和法専用ポリマー粉末と従来からの筆積法・混和法共用ポリマーとの違いの説明があった。続いて、各自、実際に製品を使用して筆積法、混和法を行い、専用ポリマーと共用ポリマーとの操作性の違いを実習で体験することが出来た。また、スーパーボンドマイクロ

シリンジを用いた動揺歯固定の実習を行い、日常臨床の多くの場面でスーパーボンドが活用できることが実感できた。

質疑応答では、スーパーボンド使用の際に生じたトラブルについてエビデンスを踏まえてトラブルシューティングを説明いただいた。

最後に閉会の辞を橋本直典南区副支部長が述べ、盛況のうちに終了した。



(左) (右) 講演の様子

西区支部

平成 31 年度(令和元年度) 西区在宅医療・介護連携推進委員会事例検討会

標記会が 1 月 22 日(水)午後 7 時より西区地域福祉センター3 階「大会議室」にて西区在宅医療・介護連携推進委員会の主催で開催された。青木有裕子西区ケアマネジメント勉強会主任ケアマネ部会長による総合司会の下、山本匡西区地域保健対策協議会会長より、今年度のテーマは「摂食嚥下障害者の多職種連携について」であるとの開会挨拶があり、油野初音古田地域包括支援センター委員より各包括圏域内の在宅医療・介護連携推進会議で摂食嚥下障害についてのテーマで開催された報告と概要説明がなされた。続いて山田亜紀子コールメディカルクリニック広島言語聴覚士より事例紹介がされた。

検討テーマは、高齢の方が交通事故による頸椎骨折で四肢不全麻痺になり、摂食嚥下障害や誤嚥性肺炎を起こされておられるという事例で、グループワークが行われた。興味深い検討テーマが 2 つ挙げられ、テーマ①、退院から現在までにどんなアプローチができたかという事

について、どの時期に、どのような治療、支援、連携ができたかを各職種から活発な意見が述べられ発表の後、テーマ②、半年後の孫娘の結婚式に本人が行きたくないと言われるのをどう本人の不安を取り除き、参列できる支援をするか検討された。職種により様々な角度からの意見が出てとても有意義であった。落久保裕之西区在宅医療・介護連携推進委員会委員より総評があり、厚生省の適切なケアマネジメントのための疾患モデルの歴史と今年度は誤嚥性肺炎についてであるとの説明等があった。最後に、閉会の挨拶が濱井千年世西区健康長寿課委員と網岡徹西区在宅医療・介護連携推進委員会委員長からあり閉会した。西区支部から角田達彦支部長、竹田芳弘副支部長、浅川敏文氏、岡田浩幸氏、豊田育星氏、濱岡代枝氏、林優美氏、宮迫隆典氏、森川英彦氏、山崎香氏の 10 名が参加した。



(左) 多職種で満杯の会場におけるグループワーク発表の様子
(右) 網岡徹推進委員会委員長による閉会挨拶

第6回 井口台・井口圏域 在宅医療・介護関係者の連携会議

標記会が1月25日(土)の午後3時より、草津病院北館「作業療法室」にて、井口台・井口地域包括支援センター主催により開催された。佐藤悟朗草津病院院長の開会挨拶に続いて、古岡寛子井口台・井口地域包括支援センター長より「井口台・井口包括圏域の取り組み」としてこれまでの事業について報告がなされた。続いて浜井行夫石田耳鼻咽喉科医院院長が「在宅における摂食・嚥下訪問診療～経口摂取をチームで支えよう 最後まで口から食べられるように～」という演題で講演された。耳鼻科医で訪問診療を行われる数少ない医師で熱く経験を述べられた。今後広島市の耳鼻科において摂食嚥下に力を入れていく取り組みについても説明された。症例を元にグループワークを行い、各職種から熱心な意見交換がなされた。解説とともに資料も沢山提供され、各職種の方に摂食嚥下の知識が広がる印象を持った。山本匡西区

医師会会長から総評があり、在宅の場合主治医が現状を知らないことが多くキーパーソンを明確にして顔の見える連携が必要と述べられた。本会より豊田育星氏からまとめの言葉が述べられ、藪田耳鼻咽喉科医院藪田良三医師の閉会挨拶があり閉会となった。なお西区支部からは、角田彦彦支部長、豊田育星氏、豊田眞一氏、濱岡代枝氏の4名が参加した。



講演をする浜井行夫石田耳鼻咽喉科医院院長

観音地域包括支援センター主催「介護予防教室」

2月20日(木)午後1時30分より広島市西区観音公民館2階「研修室1」にて、観音地域包括支援センター主催の「介護予防教室」が開催された。「知っておきたい！口腔ケア」と題し、岡田浩幸氏が、36名の西区観音地区の住民に対して、講演を行った。

講演に先立ち、節目年齢歯科健診や妊婦歯科健診、在宅訪問歯科健診などの事業を説明し、本会の取り組みを紹介した。

講演では、フレイルの前段階であるオーラルフレイルを理解し、予防・改善できれば介護予防につながることを示した。実際にオーラルディアドコネシスや反復唾液嚥下テスト(RSST)やお口の体操などを参加者全員で行い、オーラルフレイルのチェックや予防・改善方法を解説した。また、オーラルフレイルは窒息や誤嚥性肺炎のリスクも高めるため、早期の改善が必要であることを説明した。

オーラルフレイルを予防するためには、一般的な口腔清掃を行う口腔ケアだけでなく、口腔機能の維持・改善

のためにかみかみ百歳体操などの日頃からの運動が重要であることを説明した。さらに、かかりつけ歯科医院をもち定期歯科健診を受けることでお口の中から介護予防を行うことを勧めた。

また、歯科医院で行う介護予防として、広島市の総合事業である短期集中通所口腔ケアサービスについても説明を行った。ペコぱんだの体験も行い、本講演は盛況のうちに終了した。

今後も地域住民との関わりをもち、地域歯科医療に貢献できる活動を続けて行きたいと考えている。



講演をする岡田浩幸氏

西区支部例会

標記会が2月20日(木)午後7時30分より、西区己斐本町「木松旅館」にて開催された。まだまだ寒さの残る夕刻、参加者を前にして角田達彦支部長の司会進行で、まずご逝去された北本純司氏に全員が黙とうを行った。その後、報告事項として①田中英樹氏の診療所廃院と同氏よりの挨拶、②年末休日歯科救急医療の様子、③本会新年互礼会、④前出、北本純司会員の診療所移転と同氏の訃報、⑤渡辺幸男氏の診療所移転、⑥西区在宅医療・介護連携推進委員会事例検討会、⑦井口台・井口圏域 在宅医療・介護関係者の連携会議、⑧広島市歯科医療福祉

対策協議会総会、⑨佐伯区・西区合同地域保健対策協議会シンポジウム、⑩その他、新型コロナウイルスと3月29日開催予定の保険講習会について報告された。続いて協議事項として①次回、花見会について、②年末休日診療等について協議された。引き続き、加藤寛上八丁堀法律事務所所長(本会顧問弁護士)をお迎えし、「歯科医療過誤裁判例」と題して講演が行われた。注意していても巻き込まれかねない不測の事態に備える必要性が高いことを感じられた。最後に、角田支部長の閉会の辞で終了した。



(左) 講演をする加藤寛上八丁堀法律事務所所長 (右) 支部会の様子

第12回 己斐・己斐上圏域 医療と介護の連携会議 医療と介護の連携に関する意見交換会 認知症ケース事例検討会

新型コロナウイルスの為、多くの会議が中止される中、2月25日(火)午後7時より西区地域福祉センター3階「大会議室」にて、標記会が開催され、医師、歯科医師、薬剤師、介護関係者、約70名がマスクを着けて出席した。

事例検討会では、かなで居宅介護支援事業所の森加恵主任介護支援専門員による事例報告があり、本人が自宅で生活を続ける為に考えられる課題は何か、優先順位と解決方法についてグループワークが行われ、意見を発表した。

複雑な状況に頭を悩ますなか、岩崎庸子西部認知症疾患医療センターセンター長による、まとめに入った。

原点に帰って、シンプルに考えると、本人にとっての希望は最低限すでにかなっており、本人の今までの長い歴史を考えずに、理想の型にはめ込もうとしているのではないかとの意見に、先生への質問も出ないくらい、目から鱗の衝撃であった。

最後に石田哲石田内科副院長の総評の後閉会した。

なお、西区支部からは、竹田芳弘副支部長、濱岡代枝氏、松村英朗氏の3名が参加した。

支部長・副支部長自己紹介

野村登志夫東区支部長

昨年7月より東区支部長を務めさせていただいています野村登志夫と申します。

早いもので、この仕事を受けて8ヶ月が過ぎました。初めは仕事の内容が分からず、右往左往の毎日でしたが、前任の寺迫環先生から懇切丁寧に教えていただきました。昨年のソフトボール大会には16名の先生が参加し、見事Bグループに返り咲くこともできました。また今年の新年会にも、半数以上の先生がご出席くださり大変盛り上げていただきました。支部の先生方の多大なるご協力に、この



本物の BANKSY ですか？

の場をお借りして深く感謝いたします。多職種連携会議などに出席すると、これまで面識のなかった職種の方と会を重ねるごとに顔の見える関係となり、意見の交換がしやすくなります。歯科に対する様々な期待の声聞こえてくるので参加してよかったと思います。

「これが趣味です。」というほど大それたものはないですが、子どもがまだ小さいので、休みになると一緒にあちらこちらへ出かけます。子どもの成長はあっという間なので、今のうちにできるだけ遊んでもらおうと思っています。これから人生100



チコちゃんキョエちゃんと一緒に



もうすぐオリンピックですね

年時代と言われますが、まだ折り返しに差しかかったばかりです。「ポロっと生きてんじゃねーよ！」と言われたいよう、様々な方からいろいろと教えていただき学んでいこうと思います。これからもどうぞよろしくをお願いします。

竹本美保東区副支部長

広島市東区の副支部長を拝命しました竹本美保です。東区の会則の通り、年齢順に1期ずつということで、順番が回ってきましたので、粛々と務めさせていただきます。支部長の野村先生にはいつもご負担をかけて頭が下がります。

以前素人に毛の生えたレベルの登山について少し書かせていただいたことがありましたが、ここではせっかくですので拙い趣味を他にもご紹介させていただこうと思います。私の趣味を語る上で欠かせないのはモトクロスです。大学同期の三保先生に誘われてオフロードバイクに目覚め、耐久レースやサバイバルレースにはまり、果てには全日本モトクロス選手権まで参戦しました。モトクロッサーの練習用と本番用の2台を所有して自分で整備した



全日本九州大会

マシンをハイエースに乗せ、一人でも練習に出かけていました。成績は予選をなんとか通過して、ポイント圏内にぎりぎり入るのがやっとでしたが、開業してしまうと続けるのは無理でした。ただ今でもオフロードは恋しくて、乗りたくてたまらないのを忙しさで乗っていない現状があります。三保先生の「広島モーターサイクルレース全史」は資料集めにも協力しましたが、私の華々しかったレースの成績が巻末に載っていますので、ご興味のある方はぜひご覧ください。

年中レースがありました。冬季は全日本大会がなかったため、冬は山スキーに明け暮れていました。山スキー歴は20年ちょっとになりますが、今ではよく知られるようになったバックカントリーのことです。スキーに滑り止めをつけて雪山を登り、好きなところまで行って滑降して戻って来ます。広島山もさんざん滑っていますが、よい先輩と仲間



2位以下をラップしたレース



大山にて



診療報酬改定説明会前にトレイルマラソン完走

良野岳や旭岳、羊蹄山などスケールの大きい山スキーを楽しみました。この数年は「人は走るために生まれた」ことに気づかされて、もともと走ることは得意ではないのですが、山の中を走るトレイルマラソンなら楽しそうだと思い、広島県内の大会に幾度か出てみました。練習があまりできないので成績は振るわないですが、運動不足の解消には山歩きより短い時間で同じコースを行ってこれるので、時間のないときは荷物を少なくして走って山行をしたりしています。一昨年からは友人の影響で新しい趣味を始める準備を進めています。まだまだ初心者で駆け出しですので、経験を積んで人に言えるレベルになったらご披露しようと思います。他にはレースから遠のいてライダーとあまり言えなくなっているので、自動二輪限定解除に合格以来乗っていない大型バイクを密かに狙っていますが、乗る時間はあるのでしょうか。

古谷知之南区支部長

10 数年前に県歯科医師会の常任委員を辞めて以来全く歯科医師会活動に参加していませんでしたが、還暦を迎えるにあたり最後のお勤めとして南区支部の支部長を「2年間」勤めさせていただくことになりました古谷知之と申します。

県歯会常任委員時代は、林偕一先生の下、毎日のように診療後は旧歯科医師会館に通い「会員の先生方」のため全知全能を傾けて仕事をしようご指導頂きましたが、辞めてからは、「カーブ」と「釣り」のために全知全能を傾けた生活を送っておりました。



灯台

先日も新型コロナ騒動真ただ中にもかかわらず診療を休んで3泊4日でカープのキャンプを観るため日南まで行ってまいりました。毎年キャンプにてカープの選手の調子を確認し、戦力分析を行い、選手と共に開幕に向けて気持ちを盛り上げていくのが我が家の恒例となっております。

また、釣りの方も老後のためにと10数年前に小さな漁船を購入し、波の無い日は殆ど海に出ています。釣果の方は「？」ですが、海に出ているだけで全てのストレスから解放され、健康のためには一番の薬ではないかと思っております。



天福球場



油津駅

残り1年半、「カープ」と「釣り」を少しだけ我慢して「南区支部会員の先生方」のために全知全能を傾けていこうと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

橋本直典南区副支部長

この度、副支部長を拝命しました橋本直典と申します。南区支部では輪番制で理事を受けて以来10年ぶりの役職となり



仲良しの高校OB同士で親睦ゴルフ
左端は熊谷宏会長
小生の隣はEtak 開発者の二川浩樹教授



パフォーマンス席より

ますが老体に鞭打ち2年間会務にあたる所存です。さて、自分には無縁と思っていた還暦の二文字がひたひたと迫ってきている今日ですが、不摂生がハマリ巨大化の一途を辿り、人間ドックでの血液検査では目を覆いたくなるような数値がズラリ…。

6年前、出っ腹を見かねた高校同級生の親友に連れ出され、安価な初心者ゴルフクラブセットを購入し、何と僅か50球程度打っただけで、人生初のラウンドへ！まともにクラブすら握れない小生ですからゴルフというよりほぼ拷問。初めてのバンカーでは何十発も叩くは、もうハチャメチャ！！しかし、2万歩くらい歩いた甲斐あって帰って体重計に乗れば2Kg減(笑)！それ以来見事に嵌り、相変わらず下手糞ではあるものの趣味の一つになろうとは…。

そしてもう一つの趣味はCARP。某私設応援団に所属しているほどのカープ馬鹿ですが、腰痛持ちの為応援旗を振るのはNG…(笑)現在は顧問として大人しくしていますが身も心もカープの赤一色であります。年間40試合近くズムスタに足を運んでおりますので見かけられましたら是非お声掛けください。打倒！橙兔！！

柔しく剛く

広島市歯科医師会における
保険部事業について
—診療報酬改定を控えて—

熊谷 宏

令和2年度改定が目前に迫ってきました。歯科用金銀パラジウム合金の高騰でやればやるほど赤字になる鑄造歯冠修復等の毎日や、消費増税による経費増大の中、今回の改定には並々ならぬ期待をされているのではないかと思います。本稿を書いている今日現在、個別改定項目及び診療報酬点数表が示されたところです。

診療報酬改定は、①予算編成過程を通じて内閣が決定した改定率を所与の前提として、②社会保障審議会医療保険部会及び医療部会において策定された「基本方針」に基づき、③中央社会保険医療協議会(中医協)において、具体的な診療報酬点数の設定等に係る審議を行い、実施されます。

改定率については、マイナス改定も取り沙汰される中、医科+0.53%、歯科+0.59%、調剤+0.16%となりました。日本医師会横倉義武会長の「満足するものではないが、厳しい国家財政の中、最終的に診療報酬が微増となったことに一定の評価をしたい」との言葉がすべてを表していると考えます。

社会保障審議会において策定された基本方針では、歯科に関して「歯科医療機関を受診する患者像が多様化する中、地域の関係者との連携体制を確保しつつ、口腔疾患の重症化予防や口腔機能の維持・向上のため、継続的な口腔

管理・指導が行われるよう、かかりつけ歯科医の機能を評価」などと記されています。フレイル対策への歯科の関わりや介護、障害福祉関係機関との連携について触れた「骨太の方針2019」を反映したものであると思います。

これを受けた中医協において、個別改定項目及び診療報酬点数表が答申されました。具体的内容は県歯会保険部の改定説明会に任せますが、初再診料増点における院内感染防止対策に係る施設基準に「職員研修」の追加、歯科疾患管理料の取り扱いの変更、SPTの対象とならない「歯周病重症化予防治療」に対する評価の新設、小児口腔機能管理・口腔機能管理の取り扱いの変更(歯科疾患管理料の加算を廃止し、独立した管理料の新設)、CAD/CAM冠の対象拡大(下顎第一大臼歯から上下顎第一大臼歯に)などが目を引きます。

前置きが長くなりましたが、本稿の目的は今回の改定説明ではありません。本会の保険部事業についての考え方をお話しします。現在の本会各部名称に「保険」という言葉がなくなったことにお気づきの方もいらっしゃると思います。しかし、「保険」を軽視しているわけではありません。私は、

歯科医師会における保険関連事業は、その事業が高い専門性と高度な政治判断などから運営されるべきであり、広島県歯科医師会保険部主導で行われるべきだと考えています。幸い県歯会保険部は、森本進保険部長を中心に全国からも注目される高いレベルを有しています。私が本会会長として最も重視したのは、県歯会保険部との連携です。ご承知の通り、瓜生賢副会長は県歯会保険部委員長、そして本会で保険を担当する総務部には県歯会保険部常任委員である森本慎樹理事を配置しています。さらに私自身も、県歯会保険部参与として森本保険部長とは常に深いレベルでコンタクトできる関係です。先生方をお守りする最強の環境を有していると自負しており、今後とも、先生方を保険部事業の観点からお守りしていくことをお誓いいたします。

各部からの報告

総務部

広島市医療安全推進協議会より —こんな医療トラブルが起っています—

広島市医療安全支援センターに寄せられる苦情・相談の現状について具体的相談事例を報告します。なお、個人情報保護の観点から、相談者の個人特定が行われないうように、相談内容に関しては、若干の修正を加えております。

事例5：医療過誤が疑われる歯科医院を訴えたい

奥歯の詰め物が取れ、受診歴のある歯科を受診。歯を削る際に歯科医が「あ、ごめんなさい。」と二回くらい謝った。他のいい歯を削られた感じがした。治療が終わった後、歯石除去に通院。その際に歯科衛生士が口の中を覗き込んで、変な顔をした。詰め物のところの痛みはなくなったが、三か所くらい他の歯の痛み。痛みが治まらないので他歯科を受診。「むし歯はないが、歯石がかなり付いているので取ろう。」と言われた。一週間前に歯石除去をしたのは何だったのか。むし歯がないのに痛みがあるということは、やはり歯を削られ過ぎた痛みだと思った。あの歯科を訴えたい。

(センターの対応)

他歯科で前の歯科の話をしたのか尋ねると「していない。」との回答。前の歯科で、治療が終了しても痛いのは何故かを聞くのが一番いい方法だと提案するも「信用できない。」とのこと。訴えたい、補償を、と言うのなら、弁護士相談になることを伝えた。また、相談者の希望があったため医療・介護 ADR の連絡先を伝えた。

(コメント)

治療後他部位に生じた痛みに関しては、治療との因果関係は不明です。にもかかわらず「痛みの原因が医療過誤によるものではないか」と訴える患者さんの心の根底には、歯科医や治療に対する不信感があります。こうした不信感を生まないように細やかな配慮を心がけましょう。

事例6：通院していた歯科が廃院していた

子供が数年前から矯正している歯科へ通院している。事情があり、この一年通院できなかった。先月予約しようとしたら電話が通じない。歯科医院へ行くと閉まっていた。一年前に虫歯の治療は終了し、矯正に入ろうとし

ていた。張り紙も何もない。廃院したのだろうか。連絡を取る手段はないだろうか。

(センターの対応)

医務係へ廃院届を確認後、廃院届が提出されていることを伝えた。歯科医師会で連絡方法が分かる可能性があるかと伝えると、既に連絡済みで会員ではなかったと言われた。

(コメント)

廃院する際には、患者さんが廃院後も他院で適切な治療を受けられるよう配慮しましょう。

事例7：自由診療で治療した差し歯が、保証期間が過ぎてすぐに壊れてしまった

子（成人）が自費で差し歯をした。保証期間が過ぎてすぐに壊れた。新しくするのに同じ費用がかかると言われた。保険診療では十年もつように書いてある。きちんとフォローをしていたのに壊れたのは別の理由があるのではないかと納得できない。

(センターの対応)

保証期間が過ぎていけば新しく作るものには費用がかかるのは当然であることを伝え、自費で診療したものであり、壊れた理由など疑問に思うことは医師から説明を求め、当事者間で話し合うことになることを伝えた。子供さんの意思も確認することを勧めた。次に契約して作成する場合を確認することを伝えた。

(コメント)

自由診療では治療費が高額になるため、このようなトラブルが起こりやすくなります。保証期間を予め説明し、保証期間後の新製には同等の費用が生じることを納得してもらった上で治療を行う必要があります。破損理由に関しては、想定し得るものを列挙し、それぞれ保証対象となるかどうかを規定しておくといよいでしょう。

広報部

記事の確認は自己責任にてリンク先でお願いします。

最新記事はホームページにてご覧ください。

各記事の QR コードをスマートフォン等で読み取っていただければ、該当記事のページにアクセスできますが、リンク切れの場合はご容赦願います。

今月の知っておきたいこと

▼日医【動画】新型コロナウイルス感染症への対応に関するQ&A 【2020.2.17 現在】



日医 新型コロナウイルス関連感染症 (2020年2月21日)

http://www.med.or.jp/doctor/kansen/novel_corona/009082.html#b

(岡部信彦川崎市健康安全研究所長による動画解説) 新型コロナウイルス感染症の患者さんが事前に連絡なく、一般の医療機関を受診する可能性があることから、会内の予防接種・感染症危機管理対策委員会の委員でもある岡部信彦川崎市健康安全研究所長に、その対応方法等について、急遽解説して頂きました。ぜひ、ご活用下さい。

(以上上記リンク先参照)

▼大規模イベント開催で一律の自粛求めず 医療者集う学会「皆さんの知見を反映して判断を」 加藤厚労相



ミクス Online (2020年2月21日)

<https://www.mixonline.jp/tabid55.html?artid=68798>

加藤勝信厚労相は2月20日、新型コロナウイルスの感染が広がるなか、人が集まるイベントの開催に対する考え方として、「感染の広がりや会場の状況等を踏まえ、開催の必要性を改めて検討してほしい」とするメッセージを

ニュースピックアップ

▼「歯肉から毛が生えた」という女性の症例が世界で初めて報告される



ニューズウィーク日本版 2020年2月6日

<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2020/02/post-92329.php>

「口の中に毛が生える」という極めて珍しい症例がイタリアで明らかとなった。学術雑誌「オーラルサージェリー・オーラルメディスン・オーラルパソロジー・オーラルラジオリロジー」(2020年2月号)にその内容が掲載されている。

◎毛根の有無で真皮と粘膜を区別するように習いましたが、こんな事もあるんですね。

▼乾きが口臭の原因に！ 舌苔の治療と自分でできるケア・対策レシピ



NHK 健康チャンネル 2020年2月12日

https://www.nhk.or.jp/kenko/atc_1093.html

多くの方が「自分の吐く息が臭いのでは」と気にする口臭。歯磨きを欠かさずしていても、口臭測定で悪臭成分の基準値を超えることがあります。その大きな理由の一つが、口腔内の乾燥です。

口臭のもとになるのは口の中にある細菌です。口の中には約500種類もの細菌が1000億個ほどあるといわれており、ここに臭いを出す菌が混ざっているというわけです。

◎口臭の原因が口腔乾燥から来ることは知っていましたが、いざ自分の口臭は？ 口腔乾燥は？ と思いきすと、わからないのが本音です。舌苔や乾燥対策に食事形態もあるとのこと

発表した。「現時点で政府として一律の自粛要請を行うものではない」としている。一方で、感染拡大など状況の変化に応じて、適宜見直すことも盛り込んだ。(中略)

学会などの開催判断「医療関係者であれば我々よりも知識がある」

また医療従事者が集まる学会などのイベントについては、「医療関係者であれば、感染症の専門家かどうかということはあっても、我々よりも知識がある。皆さんの知見を反映していただきながら判断していただければ」と述べた。メッセージでは、イベントを開催する場合には、参加者への手洗いの推奨や、アルコール消毒薬の設置、風邪のような症状のある人の参加を控えるよう促すなどの対応も例示し、「感染機会を減らすための工夫を講じてほしい」と呼び掛けた。そのうえで国民に対し、「風邪のような症状がある場合は、学校や仕事を休み、外出を控えるとともに、手洗いや咳エチケットの徹底など、感染拡大防止につながる行動」を求めた。特に高齢の方や基礎疾患を持つ人に対しては、「人込みの多いところはできれば避けるなど、感染予防に注意してほしい」と呼び掛けた。また、そのためには、「学校や企業、社会全体における理解に加え、生徒や従業員が休みやすい環境整備が大切」だとして、テレワークや時差通勤の活用を推奨した。

(後略)

ですし、年齢関係なく食べているものや口のなかについて関心を持っていきたいです。

▼iPS細胞でひざ軟骨再生 臨床研究 国の部会で了承



NHK NEWS WEB 2020年1月24日

https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200124/k1001225795_1000.html?utm_int=nsearch_contents_search-items_015

iPS細胞から作り出した軟骨の組織をひざ関節の軟骨が損傷した患者に移植する京都大学の臨床研究が、国の部会で了承されました。iPS細胞を使って実際の患者に移植する研究計画が認められたのは、今回で7例目となります。

◎軟骨細胞は傷ついてもほとんど再生しないことが知られています。実用化されれば医療に大きく貢献することとなるでしょう。歯科においても、近い将来、歯牙がiPS細胞で再生できるようになったら欠損補綴の治療も大きく変わっていくことが考えられます。

▼傷治すたんぱく質スポンジ 難治性の潰瘍を対象に治験



読売新聞デジタル 2020年2月6日

https://www.asahi.com/articles/ASN256V6YN1PPLBJ00H.html?iref=comtop_list_biz_f01

化学メーカーの三洋化成工業(京都市東山区)と京都大は、

人工的につくったたんぱく質のスポンジで、糖尿病の影響などによる傷を治す治験を、2020年度に始めると発表した。治験は医療器具として販売するために必要な手続きで、順調に進めば22年度にも販売を始めるという。

◎難治性の潰瘍に対して、皮膚の再生に効果があるとのこと。医療用に転化できる素材の開発はまさに日進月歩ですね。口腔内で使用する材料もこれからどんどん進化していき、また開発していただけたら、と考えます。

▼「もう辞めたい」「患者よ、昼に通院して」長時間労働の開業医が訴える「働き方改革」



Yahoo NEWS 2020年1月29日

<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200129-00010711-bengocom-soci>

「せめて週1日は休みたい」。開業する医師や歯科医たちから、そんな切実な声が上がった。神奈川県保険医協会が1月29日、東京・霞が関の厚労省で会見し、「この働き方を次の世代の医師に引き継がせたくない」と訴えた。

◎神奈川県保険医協会によると、「診療報酬が減少する中、開業医は夜間診療をするなど患者数を増やして経営を維持しようとしている」としたうえで、週末等に患者が集中するため、「患者が平日の昼に来られる環境を作ってもらいたい」とのことでした。労働者が勤務中に病院に行くことを許容する環境が整備されれば、開業医の負担も減ることが考えられます。

▼新型肺炎、強制入院や就業制限可能に 政府が「指定感染症」に決定



産経ニュース 2020年1月28日

<https://www.sankei.com/life/news/200128/lif2001280018-n1.html>

政府は28日午前の閣議で、感染拡大が続く新型コロナウイルスの肺炎について、患者の強制入院や就業制限ができるようになる感染症法上の「指定感染症」とする政令を決定した。感染拡大により、国内でも深刻な被害が生じるのを防ぐのが狙い。10日間の周知期間を経て、2月7日に施行する。

◎指定感染症の指定は平成26年の中東呼吸器症候群(MERS)以来で5例目となり、新型肺炎は、結核やH5N1型鳥インフルエンザなどの「2類感染症」と同等の扱いとなります。世界中に感染が報告されつつあります。なんとか、パンデミックにならないように対応策を検討してもらえればと思います。

▼新型肺炎、受け入れ準備進む 指定医療機関「普段通りに」



産経ニュース 2020年1月28日

<https://www.sankei.com/life/news/200128/lif2001280052-n1.html>

感染拡大が続く新型コロナウイルスによる肺炎が28日、「指定感染症」に指定され、感染症法上の「2類相当」の対応が求められることになった。感染者が出た場合に治療や入院先となる「指定医療機関」では受け入れ態勢が進むが、新型肺炎の感染力の高さに加え、中国人を中心に外国人患者の来院も予想され、難しい対応を迫られている。

◎感染防止策として、内部の空気が漏れない診察室に誘導して問診しますが、新型肺炎は感染の有無が判明するま

でに日数がかかることもあるため、疑わしければ入院させる可能性が高いそうです。中国では患者の対応した医師が感染した例もあります。従事者には、十分気を付けていただきたいです。

▼ジェット風船の自粛求める 阪神が 新型肺炎の感染予防で

産経ニュース 2020年2月7日



<https://www.sankei.com/life/news/200207/lif2002070051-n1.html>

プロ野球阪神は7日、新型コロナウイルスの感染拡大などを受け、予防策として2月の練習試合やオープン戦でジェット風船を利用した応援の自粛を求めると発表した。1軍キャンプ地の沖縄県宜野座村、2軍が鍛える高知県安芸市で行われる試合に加え、敵地で臨む試合でもファンに風船を自粛するように協力を呼び掛けた。

◎阪神タイガースの球団担当者は「球団として、できることをしようと思って対応した」と説明したとのこと。ちなみに3月以降の対応は未定ということです。阪神球団は平成21年5月、新型インフルエンザの感染拡大を受けて風船自粛をお願いし、約1カ月後に使用が再開されました。カーブはどうしていいのでしょうか？

▼[新型コロナウイルスQ&A] 病原性は季節性インフル並みか？

予防には手洗いの徹底を マスクは周囲にうつさないため

YomiDr. 2020年2月12日

<https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20200210-OYTET50017/>

新型コロナウイルス(2019-nCoV)について、国や世界保健機関(WHO)、関連学会の発表などからQ&Aにまとめました(2月12日更新、随時更新します)。

◎コロナウイルスについて、恐怖が先に立っています。今だからこそ基本的なことからもう一度確認する必要があるように思います。そして自分自身や家族、院内感染を防ぐために冷静に対応していきたいものです。

▼コロナウイルスに効果のある除菌剤

Etak(イータック)

ベテナリーサイエンス 2020年1月28日

https://v-s.co.jp/archives/1028?fbclid=IwAR1n6pH4zEiizar9Ed00JGQ3lWNx-di8_SFauk7_BvGO67qc0_2PxG6oOPA

中国武漢市で発生した新型コロナウイルスですが、ニュース等で報道されていますように大変な猛威を振っています。国内でも4名の発症者が報告されています。このコロナウイルスに、「理論上効果あり」と研究結果がでている持続性抗菌剤『Etak(イータック)』が今、注目を集めています。

◎ご存知の方も多いと思いますが『Etak(イータック)』は二川浩樹広島大学歯学部教授の開発された抗菌剤です。身近な二川教授の活躍は我々の日々の診療の刺激になりますね。

▼世界的健康問題“Hikikomori”への有効な対処法とは

メディカルトリビューン 2020年02月13日
<https://kenko100.jp/articles/200213005035/>



九州大学・引きこもり者の家族向け支援プログラムを検討「引きこもり」という言葉が、“Hikikomori”として世界で通用しつつあることをご存じだろうか。

◎日本から始まって世界に流通している言葉は数多くあるようです。でもこのようなネガティブなものはあまり流行ってほしくないですね。我が国では高齢者の引きこもりが問題となっていますが、外国ではどうなのでしょう。

▼オリオン座が崩れる？ ベテルギウスに異変

朝日新聞 DIGITAL 2020年1月18日

https://www.asahi.com/articles/ASN1K0JFVN16ULBJ009.html?ref=mor_mail_topix1

冬を代表するオリオン座の1等星「ベテルギウス」に異変が起きている。昨秋から急激に暗くなり、明るさが3分の1になった。



◎冬空に勇壮な姿を見せるオリオン座。星座の中でもかなり有名です。その1等星(一番明るい星)で寒空に冬の大三角の一頂点を形成するベテルギウスですが、その存在が永遠のものではないとは。この世のはかなさを感じざるを得ません。

FM ラジオ「FM ちゅーピー76.6MHz」



FM ラジオ「FM ちゅーピー76.6MHz」サイマルラジオスタート

「お口の健康広場デンタルパーク」 広島すまいるパフェ 第1・3水曜日午後0時50分から
3月4日放送分

「この歯、放って大丈夫？」

広島市歯科医師会 尾山奈々子氏

歯の一部が真っ白になったり茶や黒に変わったり、急にピリッと痛みを感じた時、不安を感じる方も多いのではないのでしょうか。その状態はむし歯なのか、治療は必要なのか、判断の一助となるポイントを広島市歯科医師会の歯科医師、尾山奈々子さんが解説します。

3月18日放送分

「かみ方の癖に注意」

広島市歯科医師会 野坂覚氏

硬いものを食べるのが好きな方や、普段から力いっばいかむことが癖になっている方は、歯が徐々にダメージを受けて、すり減ったり欠けたりすることがあります。場合によっては折れてしまうこともあります。破折は歯周病、むし歯に続き、抜歯原因の第3位です。気付きにくいかみ癖について、広島市歯科医師会の歯科医師、野坂覚さんが話します。

広報部より連載記事をぼちぼちと発信いたします。気長にお付き合いのほどを。

誰もが納得！ I L♥ve 広島弁じゃけえ。

～第5回～ チビルって何だ??

富士見太郎先生は広島市内で開業して35年になる67歳の歯科医です。若いころから勉強熱心な富士見先生は地域住民から愛され、地域の名士と云っていいほどです。歯科医師会でも要職を歴任してきたこともあって、若手の先生からも信頼されています。患者さんに説明する時も大きな声で分かりやすく説明するので、患者ウケは上々です。ただし、話は一方通行になりがちで、人の意見に耳を傾けるのは苦手なようです。

40代の患者 Eさんは広島に赴任して半年になる転勤族です。東京都に生まれて学生時代も東京、就職してからは東京本社、札幌、新潟に赴任し、箱根の関を超えて居を構えるのは今回が初めてです。今日は会社の同僚に勧められて初めて富士見さんのクリニックを訪れました。一昨日から上下の歯がシミで好物のガリガリ君アイスキャンディーをかじることが出来ないのです。Eさんは症状を伝えます。富士見さんはEさんの口腔内を見て「おーきなむし歯はなさそうだけど、念のためレントゲンを撮りましょう。隠れたむし歯が写るかもしれん」そう言いながらレントゲン室に案内します。



現像から上がったパントモをつぶさに見てもカリエスはなさそうです。再び富士見さんは E さんの口腔内を時間をかけて視診します。今度はスリーウェイシリンジを手に時々エアを吹きかけて E さんの様子を観察すると、咬合面にエア一痛があるようです。咬合面は著しい咬耗により広範囲にわたって象牙質が露出しています。「E さん、あなた歯ぎしりをするねー。歯ぎしりをする者は歯がよーチビるんですわ。それでアイスキャンディーがしみるんです」。E さんには富士見さんの説明が理解できません。「歯ぎしりをしている自覚はありますが、理解できないので分かりやすく説明してください」。富士見さんは大きな声でゆっくりと説明を始めます。「歯ぎしりでチビとるんです。それでエナメル質がなくなるとるんです！」。E さんは怪訝な表情でこう言います。「どうし小便を漏らすとエナメル質が無くなるんですか？」・・・

西日本の広い範囲で日常的に使われる「チビる」ですが、東日本ではなじみのない言葉のようです。辞書によると「禿びる」と表記される古くからある言葉のようです。ちなみに小便をチビるとはアクセントで区別されます。「【チ】ビる」は摩擦、「チ【ビ】る」は小便ですね。

※国語学的な知識を持たない一介の歯科医の見解であり、間違っているかもしれません(笑)。

会員ひろば 新入会員紹介



岡崎 文彦

広島市歯科医師会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

此度、広島市歯科医師会に入会させて頂きました岡崎文彦と申します。

まず初めに、広島市民病院歯科口腔外科に在籍していた際、広島市歯科医師会会員の多くの先生方に周術期口腔機能管理をご協力頂き、また口腔外科疾患のご紹介も沢山頂いておりました。先生方のご助力により、たくさん勉強させて頂くことが出来ました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、私が準会員の時には、ソフトボール大会に出場させて頂きました。中区支部の先生方に、優しく接して頂き、とても嬉しく思っております。本当にありがとうございます。

私の生まれは福山ですが、父の仕事の関係で乳児期に引っ越し、広島市民として暮らしておりました。修道中学・高等学校、岡山大学を卒業後、広島大学顎・口腔外科に在籍させて頂き、大学院を卒業、クリニカルスタッフとして勤務しておりました。その後は広島市立広島市民病院歯科口腔外科、川崎医科大学歯科総合口腔医療学講座での勤務を経て、2020年4月1日に、南区段原日出にて「岡崎歯科口腔外科」を開業させて頂く運びとなりました。

入会に際しましても、多くの先生方からたくさんのご助言、ご指導、またお力添えを賜り、非常に感謝しております。

微力ではありますが、地域の為に少しでも貢献できるように努めていく所存でございます。

まだまだ未熟で、先生方には色々とお迷惑をお掛けすることと存じますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

2 月定例理事会報告

「部外報告」

1月21 - 27日 社会保険診療報酬支払基金審査
(合議 27日)

1月23日 歯科医師国保組合理事会

1月24日 平成31年度広島市学校保健会専門委員会
第1回歯科保健対策委員会

1月25日 第2回中国・四国地区歯会連合会会長・
日歯代議員合同会議

1月29日 令和元年度第2回広島圏域地域医療構
想調整会議

1月30日 日本歯科医師会柳川副会長との協議

2月 1日 (県)新入会員研修会・懇親会

2月 3日 社会保険診療報酬支払基金再審査
広島市歯科医療福祉対策協議会予算
説明会

2月 5日 広島市保健所運営協議会
国保連合会面接懇談

2月10日 滅菌事業公示

2月13日 広島市国民健康保険事業の運営に関する
協議会

2月15日 歯科医師国保組合理事会
会員親睦事業について業者との打合せ
(県)郡市地区会長・専務理事合同会議
広島市歯科医療福祉対策協議会

役員会・総会
 2月17日 令和元年度第1回広島口腔保健センター
 運営委員会
 2月19-25日 社会保険診療報酬支払基金審査
 (合議25日)
 2月19日 滅菌事業入札
 2月20-24日 国保連合会歯科審査部会
 2月20日 広島県歯科審査連絡協議会
 2月21日 滅菌事業開札
 2月22日 広島市歯科医療福祉対策協議会
 学術講演会
 〃 審士会

(連盟関係)

1月23日 自由民主党全広連支部・広島南第一支部
 合同新年互礼会
 2月 7日 緒方直之新春交流会
 2月10日 平口ひろし新年互礼会
 2月18日 「ゆざき知事を囲む県政懇談勉強会
 2020年2月度」
 〃 県歯連盟常任理事会

(総務関係)

1月25日 東区支部新年会
 1月29日 令和元年度広島市歯科医師会喀痰吸引
 研修会
 1月30日 中区支部3班新年会
 2月 1日 本会新入会員懇親会
 2月 6日 第2回学術講演会(シリーズⅢ)
 2月17日 広島市歯科医師会 救急蘇生委員会
 2月19日 第6回支部長・副支部長会
 2月21日 三役会
 2月25日 (中止)市歯会選出県歯代議員打合せ会議
 2月26日 定例理事会

(慶弔関係)

9月28日 中区支部 森田眞先生・
 西区支部 益田邦男先生
 中国・四国地区歯科医師会連合会表彰
 1月23日 西区支部 古胡英明先生
 広島県学校保健表彰
 〃 南区支部 大平勇治先生・鍋島耕二先生
 広島県永年勤続学校歯科医感謝状
 2月 7日 中区支部 高田清美先生ご尊父様ご逝去

(入会退会関係)

2月 3日 南区支部 岡崎文彦先生入会
 2月 6日 入会後面談(岡崎文彦先生)

(県歯理事会関係)

2月 6日 県歯理事会

(1) 総務部 (森本理事)

1月28日 休日診療レセプト点検
 2月 1日 本会新入会員懇親会
 2月 6日 入会後面談(岡崎文彦先生)
 〃 第2回学術講演会(シリーズⅢ)
 2月13日 (県)保険部常任委員会
 2月14日 定例委員会

2月15日 広島市歯科医療福祉対策協議会
 役員会・総会
 2月25日 休日診療レセプト点検
 休日診療保険請求における留意事項に
 ついて
 広島市医療安全推進協議会報告

(2) 学術部 (花岡理事)

1月29日 令和元年度広島市歯科医師会喀痰吸引
 研修会
 2月 6日 第2回学術講演会(シリーズⅢ)
 2月14日 定例委員会
 ①喀痰吸引研修会について
 ②今後の学術講演会開催予定について
 ③来年度事業計画について
 2月17日 広島市歯科医師会 救急蘇生委員会

(3) 厚生部 (谷理事)

2月 6日 第2回学術講演会(シリーズⅢ)
 2月13日 会員親睦事業について業者との打合せ
 2月15日 広島市歯科医療福祉対策協議会 総会
 2月18日 厚生部定例委員会

(4) 地域歯科保健部

2月13日 (県)地域保健部、学校保健部、
 介護・福祉医療部常任委員会
 2月15日 広島市歯科医療福祉対策協議会
 役員会・総会
 2月21日 定例委員会

<学校保健> (有馬理事)

1月24日 平成31年度広島市学校保健会専門委員会
 第1回歯科保健対策委員会
 2月 3日 (南区地対協)第2回常任理事会・理事会
 2月10日 堀越集会所 介護予防教室
 2月12日 (南区地対協)南区地域医療医歯薬連携
 研修会
 2月25日 (中止)市歯会選出県歯代議員打合せ会議
 ・令和2年度定期健康診断に係る歯鏡
 等の滅菌配送委託事業入札について
 ・令和2年度学校歯科医協議会について
 ・学校現場の負担軽減に向けた文部科
 学省からの協力依頼について
 ・令和元年度保育施設での歯科疾患及び
 歯科保健活動の実態調査会議について
 ・嘱託歯科学校医研修会、学校歯科医・
 保育園嘱託歯科医研修会について

<地域保健> (若林理事)

1月23日 広島市障害者差別解消支援地域協議会
 (令和元年度第5回)
 1月24日 中区在宅介護連携会議
 2月 1日 江波多職種連携会議
 2月 7日 (県)福屋八丁堀店事業所健診
 2月17日 令和元年度第1回広島口腔保健センター
 運営委員会
 ・年末年始歯科当番医制業務の手引
 (R2年度版)
 ・令和2年度休日救急診療事業日程に
 ついて

- ・休日救急診療事業 4 地区輪番制について
- ・「8020」いい歯の表彰報告書 (平成 23 年～27 年) 福祉対策協議会実績状況

掲載件数 77 件(1/21～2/20)

<地域連携> (藤田理事)

- 1月29日 令和元年度広島市歯科医師会喀痰吸引研修会
- 1月30日 観音地域包括支援センター主催 介護予防教室
- 〃 介護認定審査会
- 〃 第2回広島市地域密着型サービス運営懇談会
- 2月4日 西区医師会主催出前出張講座
- 2月6日 広島市民病院 論文データ引き取り
- 〃 介護認定審査会
- 2月13日 介護認定審査会
- 2月20日 悠悠タウン江波協力歯科連絡協議会 事前打合せ
- 〃 介護認定審査会
- 2月25日 広島市在宅医療・介護連携推進委員会 専門委員会

(5) 広報部 (水内理事)

- 1月29日 令和元年度広島市歯科医師会喀痰吸引研修会
- 2月4日 校正委員会
- 2月5日 FMちゅーピー 企画営業部 久保田氏と制作部 堀部氏と打合せ
- 2月6日 第2回学術講演会(シリーズⅢ)
- 2月13日 会員親睦事業について業者との打合せ
- 2月18日 情報調査委員会
- 2月20日 FMちゅーピー収録
- 2月25日 (中止)市歯会選出県歯代議員打合せ会議

FMちゅーピー (新聞掲載)

- 3月4日 「この歯の状態、放っておいても大丈夫？」 広島市歯科医師会 尾山奈々子氏
- 3月18日 「噛み癖に注意」 広島市歯科医師会 野坂覚氏

(6) 広島市歯科医師会ホームページについて

ホームページアクセス数
 一般サイト 訪問者 1,872 (累計 144,093)
 ページビュー 10,122 (累計 488,319)
 会員サイト 訪問者 167 (累計 28,923)
 ページビュー 720 (累計 216,158)
 広報部 … Talking Heads<最新情報>

(7) 特別委員会

(8) 救急蘇生委員会

2月17日 広島市歯科医師会 救急蘇生委員会

(9) 各部事業計画について

令和2年度各部事業計画案

(10) 歯科医療安全相談

- 1月27日 相談 初診料と再診料について(女性)
- 2月3日 相談 領収書発行について(女性)
- 2月12日 相談 廃院した矯正歯科について (40歳代女性)
- 2月17日 苦情 患者への対応について(50歳代男性)

「協議事項」

- (1) 会費について(2名)
終身会員資格取得による会費額変更について 2名承認。
- (2) 入会について(1名)
南区支部1名継続審議中。
- (3) 広島市歯科医師会 広島大学病院歯科臨床研修医セミナーについて
検討・協議の後、延期とすることにした
- (4) 広島市立神崎保育園嘱託歯科医選任について
三宅茂樹氏の後任に田中亮三氏を推薦することを承認。
- (5) 退任嘱託歯科学校医への感謝状贈呈について
検討・協議・承認
- (6) 要保護児童の歯科保健対策について
内容について検討・協議
- (7) 休日歯科救急医療研修会について
実施の方向で。状況に応じて中止、延期を判断
- (8) 会員家族親睦事業について
検討・協議・継続審議
- (9) FMちゅーピー 収録音源の保管、youtube アップ
に関して
検討・協議・承認
- (10) だより 自己紹介の今後の予定
今後の予定を確認
- (11) 太田川について
送付先について協議、継続審議
- (12) 令和2年度事業計画案・予算案について
継続審議
- (13) その他

「その他」

特になし

会員の皆様へ

広島市歯科医師会だよりに関するご意見やお問い合わせは、各記事に担当部がある場合は、担当部の理事あてにお願いします。それ以外については、広島市歯科医師会事務局ないしは広報部担当理事水内裕之までお寄せ下さい。

広島市歯科医師会事務局 E-Mail: hiroshima@dentalpark.net

広報部担当理事 水内裕之 E-Mail: mizuuchi.shika@gmail.com

広島市歯科医師会ホームページ

<http://www.hiroshima-da.com/>

会員専用ページ

ユーザー名 : **Futaba**

本会PASS : **2622662**

協議会PASS : **welfare**

投稿記事締め切りは**毎月 25 日**です。

ご協力をお願いします。

事務局までメール(上記)投稿

お願いします。

広島市歯科医師会の住所及び連絡先

〒732-0057

広島市東区二葉の里 3 丁目 2 番 4 号

広島市歯科医師会 TEL : 082-262-2662

FAX : 082-262-2668

休日診療専用電話 TEL : 082-262-2672

